窒素・酸素分子を含む空気プラズマ流の

衝突輻射(CR)非平衡計算

荻野 要介,大西 直文 東北大学大学院 工学研究科 航空宇宙工学専攻

レーザープラズマ科学のための 最先端シミュレーションコードの共同開発・共用に関する研究会 平成29年1月10日 大阪大学レーザーエネルギー学研究センター

研究背景

☆ 主な解析対象

- 大気圏突入機まわりの極超音速流れ
- ビーム生成プラズマを利用した推進技術
- アーク放電やストリーマ放電
- ☆ 短時間に変動する高温・低密度なプラズマ内部の非平衡性
- ☆ 内部励起分布の非平衡性を詳細に考慮した解析コード開発



Jovian atmospheric entry (Matsuyama, 2003)



大気圏突入機の熱防御

- ☆ 極超音速で大気圏へ突入
 - 過酷な空力加熱のため,熱防御設計が重要
- ☆ 熱防御材の重量割合
 - はやぶさ:約50%
 - MPCV(有人カプセル):約15%
- ☆ MPCVで5%の加熱率予測誤差は50kgの ペイロードに相当

☆ 過剰な熱防御材を適切に削減するために, 正確な加熱率予測手法の開発が望まれている



はやぶさ大気圏突入イメージ図



MPCV (有人地球帰還カプセル)

大気圏突入問題の代表スケール



内部励起分布の解析モデル

☆ プラズマ内部状態に局所熱平衡 (LTE) を仮定する従来手法

- 分子間衝突による励起・脱励起と光子の吸収・放出が平衡
- 電子励起などの内部自由度に Boltzmann 分布を仮定
- 温度,密度のみで内部状態を記述する従来のLTE計算
- ☆ 励起分布の非平衡性を考慮する必要のある場合 (流れ場の代表時間と衝突過程,輻射過程の代表時間が同程度)
 - 衝突輻射 (Collisional-Radiative: CR) モデルによって 励起分布を直接計算
 - 温度,密度に加え,励起分布をもとに内部状態を決定
 - 輻射と流れ場の相互作用をより正確に評価

励起非平衡プラズマ流の計算コード

👷 非平衡励起分布を考慮した極超音速流コードの例

- NEQAIR: NS eqs., Line-by-line 輻射輸送 with QSS (C. Park, 1985~)
- SPARTAN: Line-by-line 輻射輸送 with QSS (M. Lino da Silva, 2004~)
- Bultel's CR model: 時間依存レート方程式計算 (A. Bultel, 2006)
- Bultel's CR model: 定常1次元Euler計算 with 1D輻射輸送 (B. Lopez, 2014)
- COOLFluiD: 定常2次元NS計算 with Bultel's model (M. Panesi, 2014)

☆ 他の惑星用の計算コード開発も進められている

☆ レーザーやマイクロ波, 電磁場が誘起する流れ場は想定されていない



☆ 衝突輻射モデルと流れ場,輻射熱輸送の結合手法の構築

- テスト問題として,地球大気圏突入問題を想定
- 衝撃層内における励起分布の非平衡性を調査
- 突入機壁面への輻射熱輸送計算



原子・分子の電子励起モデル

☆ 11 化学種 e, N, N⁺, O, O⁺, N₂, N₂⁺, NO, NO⁺, O₂, O₂⁺

☆ 原子化学種 184 状態, 分子化学種 35 状態の計 219 励起状態

Index	Species	Electronic state representation
$1 \rightarrow 49$	Ν	$2p^3 {}^4S^*$, ${}^2D^*$, ${}^2P^*$,, $2p^2({}^3P)9s$
50 ightarrow 95	N^+	$2p^2 {}^{3}P, {}^{1}D, {}^{1}S,, 2p({}^{2}P^*)6f$
$96 \rightarrow 135$	0	$2p^{4} {}^{3}P, {}^{1}D, {}^{1}S,, 2p^{3}({}^{4}S^{*})10d$
$136 \rightarrow 184$	O^+	$2p^3 {}^4S^*, {}^2D^*, {}^2P^*,, 2p^2({}^3P)7p$
185 ightarrow 194	N_2	$X^1\Sigma_q^+$, $A^3\Sigma_u^+$, $B^3\Pi_g$, $C^3\Pi_u$, $b^1\Pi_u$, $b'^1\Sigma_u^+$, $c_3^1\Pi_u$, $c'_4\Sigma_u^+$, $o_3^1\Pi_u$, $e'^1\Sigma_u^+$
195 ightarrow 198	N_2^+	$X^2\Sigma_a^+, A^2\Pi_u, B^2\Sigma_u^+, C^2\Sigma_u^+$
199 ightarrow 205	NŌ	$X^2\Pi$, $A^2\Sigma^+$, $B^2\Pi$, $C^2\Pi$, $D^2\Sigma^+$, $B'^2\Delta$, $F^2\Delta$
$206 \rightarrow 210$	NO^+	$X^1\Sigma^+$, $a^3\Sigma^+$, $b^3\Pi$, $b^1\Sigma^-$, $A^1\Pi$
$211 \rightarrow 215$	O_2	$X^{3}\Sigma_{a}^{-}, a^{1}\Delta_{g}, b^{1}\Sigma_{a}^{+}, A^{3}\Sigma_{u}^{+}, B^{3}\Sigma_{u}^{-}$
$216 \rightarrow 219$	O_2^+	$\mathrm{X}^{2}\Pi_{g}^{\mathrm{J}}, \mathrm{a}^{4}\Pi_{u}^{\mathrm{J}}, \mathrm{A}^{2}\Pi_{u}^{\mathrm{J}}, \mathrm{b}^{4}\Sigma_{g}^{-}$

分子の励起状態とスペクトル



☆ ポテンシャル曲線をもとに,電子励起・振動・回転量子状態を算出
 ☆ 電子励起・振動・回転状態間の衝突輻射遷移を計算
 ☆ 振動・回転準位差が小さいため,帯状の発光スペクトル
 ☆ 遷移確率とEOSの整合性をとるために,分配関数も同一ポテンシャル

CR モデルの支配方程式

☆ 遷移レート方程式 (数密度の保存式) $\frac{dN_{s,i}}{dt} = \sum \text{populating processes} - \sum \text{depopulating processes}$

☆ 衝突過程: 衝突励起・脱励起, 衝突電離/解離・再結合, その他の化学反応 ☆ 輻射過程: 線放射・吸収, 輻射再結合・光電離, 誘導放射



CR モデルと流体方程式の結合関係 (拡散項は略記)



s 化学種 i 状態の密度保存式 (レート方程式)
$$\frac{\partial \rho_{s,i}}{\partial t} + \frac{\partial (\rho_{s,i} u^j)}{\partial x^j} = W_{\rm CR}$$

運動量保存式
$$\frac{\partial(\rho u^{j})}{\partial t} + \frac{\partial(\rho u^{k} u^{j} + p\delta^{kj})}{\partial x^{j}} = 0$$

輻射熱輸送の結合と計算法



輻射輸送方程式

$$\frac{dI_{\nu}(x,t)}{dx} = \varepsilon_{\nu} - \kappa_{\nu} I_{\nu}$$
CR 遷移レート方程式

$$\frac{dN_{s,i}(x,t)}{dt} = -A_{s,i\rightarrow j}N_{s,i}$$

$$+(B_{s,j\rightarrow i}N_{s,j} - B_{s,i\rightarrow j}N_{s,i})I_{\nu}(x,t) + \cdot$$



数値計算法

☆ 軸対称 Navier-Stokes 方程式

☆ CR 遷移レート方程式との結合

- 流体の質量保存式・エネルギー保存式の生成項
- LSODE (Stiff 多段階陰解法) 時間積分
- 励起分布の移流
- ☆ 接平板近似による輻射輸送計算
- ☆ 有限体積法による離散化
- SLAU scheme with MUSCL approach
- ☆ MPI ライブラリによる並列化

計算条件 (試験機の高マッハ数・低密度条件)

👷 主流条件

- velocity: 11.31 km/sec
- density: 8.57E-5 kg/m3
- temperature: 210 K

👷 壁面条件

- fully-catalytic wall
- temperature: 810 K

👷 解適合格子

- 51 x 51 grid points
- minimum grid width for BL: 1.6E-6 m (convective heat flux is converged)



振動温度・電子モル分率分布の比較



☆ 温度・密度のピーク位置が壁面方向へシフトする

自由電子が関与する遷移反応によって, プラズマ域の成長が遅れる

電子励起分布の非平衡性



- ★ 衝撃波離脱距離が短くなる
- ☆ 座標 x=-1.4 [m] で熱平衡に達する
- ☆ 励起分布の特徴が領域ごとに異なる
 - ・ CR: 衝撃波から平衡点 (x=-1.4)
 - LTE: 平衡点付近
 - ・ over population: 平衡点から壁面





- ☆ 主な差異は真空紫外のN原子系の輻射放出
- ☆ LTE従来法は過大評価と言える

17

まとめと今後の予定

👷 まとめ

- CR 流体輻射結合コードを構築した
- 輻射輸送を計算し,壁面加熱スペクトルを調査

☆ 今後の予定

- (CR 流体計算) x (輻射輸送計算) = 100 並列 2 週間程度
- 分光実験とのスペクトル比較による遷移レートの調査
- 空気プラズマを非接触で解析可能な数値分光ツールの提案